

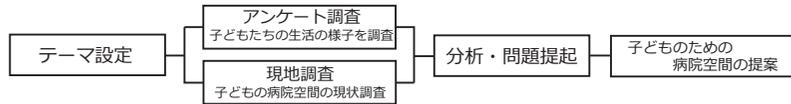
子どものための病院空間の提案

a2200726 横田彩夏

研究目的

病院建築の設計では、日々進歩する医療技術と複雑な医療システムに対応するため、デザイン性よりも機能性が求められる。しかし、高機能化する病院建築と医療機器の姿・形は子どもたちの日常感覚からかけ離れ、不安を助長しトラウマを残す可能性もある。また、医療技術の進歩により、以前は助からなかった難病の子どもたちが存命できるようになってきた。しかしこれらの子どもたちは重い病気を抱えているため、長期入院をすることになる。実際に、宮城県立子ども病院には生まれてから5年間ずっと入院している子どももいる。このような子どもたちが増えることによって、病院に学校や図書館を整備するなどの成育支援が必要とされるようになってきた。これらの現状をふまえて、成育支援のスペースが設けられるなどの子どもの病院空間を提案したいと考えた。

研究方法



調査結果

■ アンケート調査

全国22都道府県・31件の病院にアンケートを配布し、11件回収した。入院している子どもたちの年齢別人数構成と入院期間別人数構成は表-1、表-2のような結果だった。院内での行事については、すべての病院で行われているという回答結果だった。主な行事は七夕、クリスマスなどの季節の行事であり、その他に病院独自の行事も多く、多くの病院で行われていることがわかった。成育支援スペースは、院内学級の小学校、中学校が共に9件、図書館、運動スペース、カウンセリングルームがそれぞれ2件の病院があると回答している。今回選択肢としてあげた小学校・中学校・図書室・運動スペース・カウンセリングルームのすべてが揃っているところはなく、1番多いところで小学校・中学校・図書館・運動スペースの4つが揃っているという結果だった。学校以外のスペースが揃っているところは少なく、特に総合病院では、小児病棟に特別なスペースを設けることは難しいようである。



病院の空間作りでの工夫は、壁紙を工夫しているという意見が多かった。また、手作りの飾り等を飾っているという意見が多く、建築の設計そのものの工夫というより、スタッフが手作業で工夫している病院が多いことがわかった。病院の空間作りに関する具体的な要望では、「狭いので広くしてほしい」という要望が最も多かった。

診察や検査時に子どもたちの恐怖を和らげるような工夫をしているかという質問に対しては、ディストラクション（おもちゃなどで気を散らす）やプリパレーション（行われる医療処置などについてあらかじめ説明をする）を行っているという回答が多かった。

子どもたちの家族のための宿泊施設があると回答した病院は6件だった。宿泊施設がない病院でも、ベッドや布団を貸し出して病室で宿泊してもらい、家族専用のシャワー室を設置するなどの対応をしていることがわかった。

ボランティアスタッフががいる病院は8件で、主な仕事は子どもの遊び相手や食事介助、施設の清掃や環境整備など様々であった。ボランティアの運営を行っているのは、看護師が4件、ボランティアコーディネーター、事務職員がそれぞれ3件、医師が1件であった。子どもたちの精神的なケアをするスタッフについては、保育士が9件、カウンセラーが5件、チャイルド・ライフ・スペシャリストが2件、その他が2件という結果で、その他は医師、看護師、プレイセラピーという回答だった。子どもたちの成育支援に対して寄贈されたものはあるかという質問に対しては、本が10件、おもちゃが9件、展示物が4件、その他が4件という結果だった。

■ 現地調査

実際に子ども病院や総合病院の小児病棟、保護者の宿泊施設を見学し、子どもの病院空間の現状を調査した。

施設名	調査日	場所	種類
宮城県立子ども病院	7月15日	宮城県仙台市	県立子ども病院
ドナルド・マクドナルドハウス	7月15日	宮城県仙台市	宿泊施設
太田西ノ内病院	8月29日	福島県郡山市	総合病院
公立刈田総合病院	9月11日	宮城県白石市	総合病院
茨城県立子ども病院	9月17日	茨城県水戸市	県立子ども病院
竹田総合病院	10月7日	福島県会津若松市	総合病院
国立成育医療センター	10月30日	東京都世田谷区	国立病院
東京女子医科大学病院	11月17日	東京都新宿区	大学病院
ファミリーハウス桔梗	12月9日	福島県郡山市	宿泊施設

表-3. 調査リスト



▲宮城県立子ども病院

▲竹田総合病院



ドナルド・マクドナルドハウス
せんだいハウス

▲国立成育医療センター



▲東京女子医科大学病院



ファミリーハウス桔梗

宮城県立子ども病院・茨城県立子ども病院・国立成育医療センターは小児医療専門の病院であるため、設計の段階で子どものために工夫されており、成育支援のスペースも充実していた。また、茨城県立子ども病院のCTスキャナ室などには女子美術大学の学生によるヒーリングアートが施されている。太田西ノ内病院と竹田総合病院は総合病院であるため、小児病棟が他の病棟とほとんど変わらないつくりになっている。そのため看護師や保育士による手作りの飾りなどの工夫が多く見られた。東京女子医科大学病院は、2年前に現在の新しい病棟に移っており、ここにもヒーリングアートが施されている。この病院では神経系の病気で寝たきりの患者が多く、学校に行くことが難しい場合が多いことから院内学級は設置されていない。しかし訪問学級があり、訪問学級高校まで卒業した患者もいるという。

ドナルド・マクドナルドハウス・せんだいハウスは宮城県立子ども病院に隣接している保護者のための宿泊施設であり、165名のボランティアスタッフによって運営されている。ファミリーハウス桔梗は太田西ノ内病院付属の慢性疾患児家族宿泊施設であるが、実際に小児患者の保護者が利用することはあまりなく、保護者は病室と一緒に寝泊りしていることが多いという現状だった。

分析・問題提起

近年つくられた子ども病院では成育支援スペースが充実しており、子どもの事を考えて設計されているところもある。しかし、他の病棟との違いがほとんどないような総合病院の小児病棟で生活している子どもたちが多いのが現状である。そのため、スタッフが手作りで子どものための空間をつくらせている。子どもは環境の変化に敏感で、心理的な影響も受けやすいので、子どもの療育環境の改善が必要であると考えた。

デザイン提案

竹田総合病院小児病棟のエレベーターホールと処置室のデザイン提案を行う。テーマは「空」で、エレベーターホールは図書スペースとして、処置室は子どもたちの恐怖感を和らげ、積極的に治療に臨めるような空間を提案する。



▲エレベーターホール



▲処置室

エレベーターホール



▲処置室



▲処置室天井